

春光台中学校生徒達の防犯標語

春光台・鷹の巣福祉村地域の犯罪は決して多くはありませんが、地域と子ども達が安全・安心に暮らせるようにと、春光台地区市民委員会は、春光台中学校(全校生徒、三百七名)の生徒さんに防犯標語を応募していただき、選考委員により最終選定された三十七点の中から優秀作品五点が選考され、旭川中央警察署長・旭川中央防犯協会長連名、市民委員会長による表彰となりました。応募に感謝するとともに、作品は今後の防犯活動に使わせていただきます。(市民委員会防犯部)

優秀作品とお名前は次の通りです

【旭川中央警察署長・

旭川中央防犯協会長 連名表彰】

「SNS ルールを守って 使おうね!」

一年生 佐々木慧さん

「合言葉 決めれば防げる 電話詐欺」

一年生 稲井伽心さん

「犯罪は しない させない ゆるさない」

二年生 作山 凜さん

【春光台地区市民委員会長表彰】

「言わないで 知らない相手に 個人情報」

一年生 平川 楓来さん

「鍵閉めて 確認完了 Let's Go」

一年生 有衛 苺吹さん

子どもの安全を守る宣言都市

みんなで守ろう

子どもの安全

「前向きに生きたい!」

寒さが増すことに、新型コロナウイルス感染症拡大が見られ、起こるべき、どんでん返しの戻らぬ日常と心身の不安定。あつてはならない中傷誹謗と差別。両立なきコロナ感染症対策(政策)と社会構造の崩壊(医療、生活、経済など)。基礎疾患、高齢や障害のある方々には脅威です。今、ひっ迫した最前線の医療機関と、自らの生命の危機にさらされながらも業務にあたつておられる医師団と看護師さん。他にも福祉・介護関係の職員さんや保健行政の方々におかれましては日夜の奮闘ご苦労様です。疲労の限界にありながらも従事される方々、市民の方々に一日も早く終息の灯りがさしてほしいものです。

南半球のオーストラリアでは、冬の七月〜八月に増加していた感染者数が春の十月に激減したそうです。

春になれば…そう願う昨今、急な診察もままならず不意な病気はできない状況です。心身とも健康で終息を待ちたいものです。

『再会の坂(きつとまた)』

春光台ゆかりの作家・三浦綾子と恋人の前川正が戦後の春光台の丘を訪れ、綾子の大きな人生の転機となった自伝的小説「道ありき」。文中、前川正が自分の足を小石で打つ場面が…

地域と子供たちに三浦綾子文学を通じて、生きる力をつけていくことと文学遺産の継承を目的とし、春光台コミュニティ・スクールと春光台「文学の小径」友の会の共同事業として、「坂道」の名称公募と目印設置事業を行いました。(実行委員会・小原陽一会長。事前に子どもたちは三浦文学記念館ボランティアの朗読劇を見聞しています)。

春光台地域で応募された五百三十一一点の作品から、最優秀賞に春光台中学校一年、乙部真央さんの「再会の坂(きつとまた)」が選ばれました。また、それぞれ部門別に優秀作品が選ばれ、来春には名称と由来が坂の入口に設置される予定です。

優秀賞とお名前は次の通りです。

【小学生の部】

「希望が見える坂」

高台小 五年生

佐藤開生くん

「綾道坂(りんどうざか)」

高台小 六年生

菅原柚葉さん

「幸せへの道」

高台小

六年生

森谷咲心さん

【中学生の部】

「希望の坂」

春光台中

二年生

登 愛花さん

「二紡坂(ふつむぎざか)」

春光台中

三年生

宮崎ゆきさん

【一般の部】

「木漏れ日の径(みち)」

矢野直子さん

「萩坂(はぎざか)」

栗山美貴さん

「かがやきの坂」

塩谷静男さん

